

# リ・インベンション —モノづくり再生への道—

神戸大学大学院教授  
三品和宏

- \* 苦しいときのイノベーション頼み
- \* リ・インベンションとは何か
- \* マーケットから引つ張ってもらう
- \* 自動車用エアバックを応用
- \* 携帯電話のリ・インベンション
- \* ベイブレードは現代版ベীগオマ
- \* 技術飽和でイノベーション貧乏
- \* 衰退ビジネスを得意技にする欧州勢
- \* 人は絶えず新しいものを求める
- \* 組織戦、成長論では勝てない



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

今日は神戸大学の三品先生に来ていただきました。前回、東洋経済から『どうする？ 日本

企業』を出していただいたときお話をいただきました。ここ20年ほど日本はあまりよくない状況で、企業も元気がないですけれども、マクロ的なお話はともかくとして、企業に元気になってもらわないと日本経済もよくなる。ただ、日本の有力企業は何をしたらいいかかわらないというような期間が随分続いたような気がいたします。そういう意味で、今日は先生から企業の戦略はどうあるべきなのか解き明かしていただけるのではないかと考えております。

先生の新しい『リ・インベンション』というタイトルの本を今日は販売しております、皆

さんには特別価格でお売りするというので、ぜひお買い求めいただきたいと思っております。それは先生、お願いいたします。（拍手）

**三品** ご紹介にあずかりました三品と申します。今ご紹介いただきましたように、私は神戸大学で経営学、戦略論を教えております。その中で、なぜ日本企業はここまで衰退してしまったのか、そしてそれはどうすればいいのかについて一生懸命考えております。今日は諸先輩方の耳には多少聞きづらいこともあるかと思いますが、あえて私の考えをぶつけさせていただきます。

事の発端は、私の頭の中では1989年にあると思っております。この頃までは日本の企業は好調でした。ところが1989年12月、日経平